

# 2025年7月 夏到来 真っ青な空に入道雲 青田が広がる北神戸の里の夏景色 2025.7.13.

神戸 箕谷から北へ 国道428号丹生山系岩谷峠越 北神戸淡河の里遠望

四季折々 定点的に訪ねる 北神戸淡河の里、6月のHP更新を田に水が入って輝く素晴らしい淡河の里景色で飾るつもりでしたが、ぐずぐずしている間に早や7月に。季節の移り変わりの節目、青田が広がる田園の里景色もまた欠かせない。今年は特にコメ高騰に異常気象の梅雨 田園地帯の青田はけんざいだろうか……と。

7月13日 快晴 猛暑の中 暑さ払いもかねて、久しぶりに原チャリ駆けて、北の丹生山越え峠を越えるとパッと視界に緑の丘にを背に青田が広がる”神戸の田舎” 淡河の里。

一機に山を駆け下りて、淡河の里へ 風切る原チャリ エンジン音も心地よし。

夏の暑さ凌ぎに原チャリで駆ける青田の美しい神戸近郊の里 2025.7.13. 午後





真っ青な空に入道雲 青田が広がる北神戸 淡河の里 淡河の里南東側

お気に入り 北の山陽自動車沿いの丘から淡河の里の田園地帯を眺める 2025.7.13.



淡河の里は 切り花栽培でも有名な里 ユリの栽培園では純白のユリが出荷待ち 2025.7.13.



北神戸 丹生山塊の南側「山田の里」 青田の上を夏の風が渡る 2025.7.13.  
空梅雨と過酷な暑さが心配されましたが、稲すくすく育って田園地を埋め尽くしていました



北神戸 丹生山塊の南側「山田の里」 青田の上を夏の風が渡る 2025.7.13.  
空梅雨と過酷な暑さが心配されましたが、稲すくすく育って田園地を埋め尽くしていました



西神戸伊川谷 小寺の里で



西神戸伊川谷 小寺の里で

2025年7月 夏到来 厳しい暑さですが 真っ青な空に入道雲 涼風が青田の上を渡る  
青田が広がる神戸近郊の里の夏景色 2025.7.13.



北神戸淡河の里で



北神戸山田の里で



西神戸伊川谷 小寺の里で





真っ青な空に入道雲 青田が広がる北神戸 淡河の里 淡河の里南東側

お気に入り 北の山陽自動車沿いの丘から淡河の里の田園地帯を眺める 2025.7.13.



淡河のの里の北側の丘から眺める淡河の里の夏景色 2025.7.13.  
背後に下ってきた丹生山県道の坂道遠望



青田が広がる北神戸 淡河の里 淡河の里南東側

お気に入り四季折々の定点

北の山陽自動車沿いの丘から淡河の里の田園地帯を眺める 2025.7.13



淡河のの里の北側の丘から眺める淡河の里 正面の夏景色 2025.7.13.  
背後に下ってきた丹生山県道の坂道遠望 眼下には 特産切り花の栽培園も



淡河のの里の北側の丘から眺める淡河の里の南東側 すくすく育つ稲  
まもなく本年秋の収穫への期待一杯稲穂が出てくる時期に 2025.7.13.



淡河のの里の北側の丘から眺める淡河の里の夏景色 2025.7.13.  
出荷を待つユリの花 特産切り花の栽培園で



淡河のの里の北側の丘から眺める淡河の里の夏景色 2025.7.13.  
出荷を待つユリの花 特産切り花の栽培園で



淡河の里は 切り花栽培でも有名な里 ユリの栽培園では純白のユリが出荷待ち 2025.7.13.



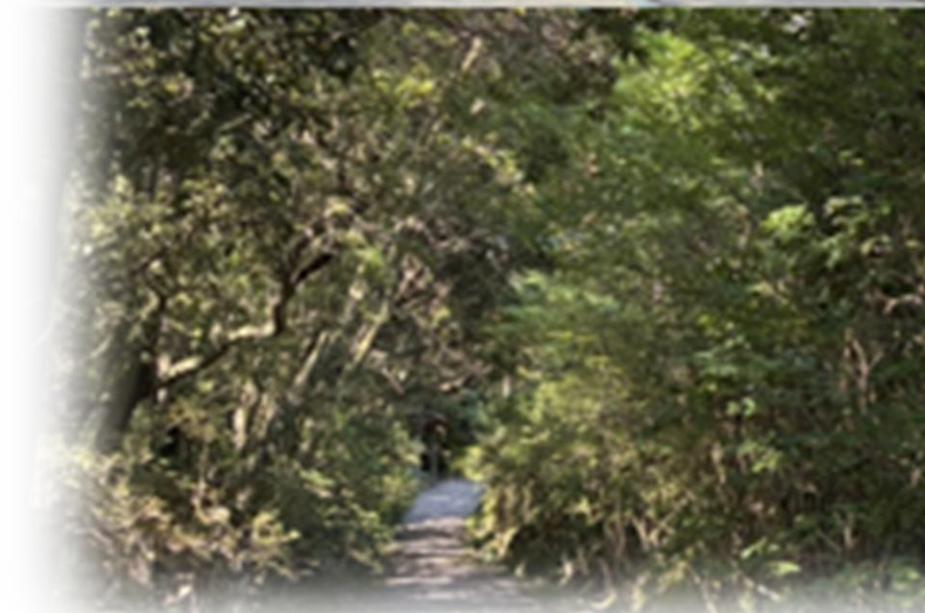
北神戸 丹生山塊の南側「山田の里」 青田の上を夏の風が渡る 2025.7.13.  
空梅雨と過酷な暑さが心配されましたが、稲すくすく育って田園地を埋め尽くしていました



北神戸 丹生山塊の南側「山田の里」 青田の上を夏の風が渡る 2025.7.13.  
空梅雨と過酷な暑さが心配されましたが、稲すくすく育って田園地を埋め尽くしていました

帰り道 山田の里 静かな森の中にある無動寺を久しぶりに訪ねました  
誰もいない静かな参道をおくのも久しぶり





帰り道 山田の里 静かな森の中にある無動寺を久しぶりに訪ねました



帰り道 山田の里 無動寺の本堂



帰り道 山田の里 緑に包まれ、静かな無動寺の空気を胸一杯



西神戸伊川谷 小寺の里で



西神戸伊川谷 小寺の里で

2025年7月 夏到来 厳しい暑さですが 真っ青な空に入道雲 涼風が青田の上を渡る  
青田が広がる神戸近郊の里の夏景色 2025.7.13.



北神戸淡河の里で



北神戸山田の里で



西神戸伊川谷 小寺の里で





水を掛け合って楽しむ幼稚園児  
ら10日前、神戸市須磨区、  
須磨海水浴場(撮影・風斗雅博)



## 暑さ吹き飛ばせ！ 神戸・須磨で海開き

### 調平正

作家の島田雅彦さんがある対談で語っている。「喜怒哀楽の感情のなかで、なぜか人を最も饒舌にするのが『怒』です」と。本当は怒りたくなどない。それでも感情の内燃機関が点火、爆発し、言葉を吐き出すしかないときがある◆「常識外れ」「信じられない」「言語道断」「ばかにしている」「許しがたい」。能登半島地震の被災地内外から「怒」の言葉があふれて止まらない。火をつけたのは自民党・鶴保庸介氏の「運」発言である◆参院選の応援演説で「運のいいことに能登で地震があった」と述べた。その後の会見では「私が責任を取ること皆さんの気持ちが収まるなら…」とも口にした。なんといい言い草、確かに人をばかにしている◆能登では約2万人が仮設住宅での不自由な暮らしをいられている。歯を食いしぼる被災地に政治家が届けるべきは「喜」や「楽」であって、「怒」や「哀」ではないはずだろう。なんで、そういうことを言う◆うちは災害と無縁です、という場所は日本のどこにもない。だれもがあの被災者になりうる、かなりの想像力があれば「運」どころかとはとても言えないはずである◆失言に妄言、また暴言。他者の痛みに寄り添えない政治家を持ったわれら国民の不運を心の底から嘆く。

2025.7.11